

# 駅を挟んで東西で役割分担

西鉄柳川駅周辺地区整備(福岡県柳川市)

写真1 ■ 福岡県南部に位置する西鉄柳川駅の西口駅前広場。東西を結ぶ自由通路の階段を降りた目の前に、イベントに活用できる面積約300㎡のイベント用空間を設置(写真の左手前)。広場と自由通路、橋上駅舎を一体的に整備した(写真:特記以外はイクマサトシ)



写真2 南西方向から西口駅前広場を見下ろす。階段の上が自由通路、その右手のガラス張りの建物が西鉄柳川駅で、改札と自由通路が接続している。手前のロータリーはバス、一般車両、タクシーそれぞれにレーン分けしている



## 車が占めていた空間を歩行者に開放 にぎわい生む地元の“顔”に

車中心の空間だった駅前広場が、人中心の場へと生まれ変わった。福岡県を南北に縦断する西鉄天神大牟田線の西鉄柳川駅・西口駅前広場だ(写真1、写真2)。橋上駅舎の改札を出て西側の階段を降りると、芝を植えた広い空間が見えてくる。

改修では広場全体の面積3900㎡はそのままにして、歩行者空間を改修前の690㎡から1900㎡と、3倍弱に広げた。この改修は、駅舎の橋上化と東口の新設広場を含めた一帯整備の一環。昨年3月に一部の舗装工事などを残してほぼ完成し供用を開始。この3月に整備全体が一通り完了した。

柳川市と西日本鉄道は、2009年から「西鉄柳川駅周辺地区整備」を進めてきた。以前の駅舎は平屋で乗降口は西側のみ。今回の整備では、西日本鉄道が駅舎を橋上化。併せて市が西口駅前広場の改修や、駅舎と一帯で機能する跨線橋形式の東西自由通路と東口駅前広場を新設した。東西の広場にはいずれも、一定規模のイベント用空間も設けている。

改修前の西口は、朝夕は通勤通学の送迎車両で大混雑する一方、日中はロータリーが閑散。周辺エリアは掘割の川下り観光などで知られるが、旧駅舎はその玄関口という雰囲気も乏しかった(写真3)。

駅前空間の刷新で市は、まずは一般車両の利用ルールを作成。「原則として改修する西口側は乗降用、待機を要する車両は新設する東口側に」というルールだ。市民向けのシ

ンポジウムや配布物などを通じて、啓発を図りながら、東西の駅前広場の計画を詰めていった。

「西口側は、利用者が集しやすい位置にたまり空間を捻出するため、ロータリーをコンパクト化して南西側に寄せて配置するなどした(図1)」。交通計画を担当したアルメックVPI(東京都新宿区)国内事業本部の五十嵐淳氏はこう話す。

計画過程で市は、駅前広場の活用法に関する市民ワークショップを合計14回にわたって開催。そのまとめ役を担った九州大学の高尾忠志准教授は、次のように語る。「市役所の駐車場をロープで仕切ってイベント空間を再現し、どんなことができるか、企画を出し合った。供用開始後に実施に至ったものもある」。

ワークショップには建築、土木、交通計画などの設計者も出席し、「柳川らしいデザイン」について市民と議論。東西自由通路の階段で5層に分かれた大屋根の意匠などは、こうした議論から生まれたものだ。

近隣エリアの特産材「八女杉」も、歩行者動線の屋根など、アクセントとして要所に活用。これらをデザインしたナグモデザイン事務所(東京都渋谷区)の南雲勝志代表は、「線路沿いの境界柵など、特産の木材を使った箇所の一部は、地元小学校との協働した取り組みで親子連れを招いて一緒につくった」と説明する。参加者からは、「子どもたちに地域愛が育まれた」とする声も寄せられたという。(大井 智子=フリーライター)



写真3 改修前の西口駅前広場。朝夕の特急が到着する時間帯は二重三重に一般車両が連なった(写真:柳川市)

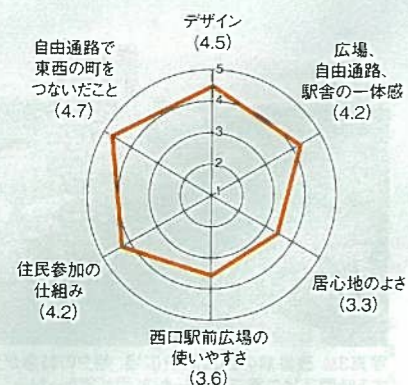
### 駅周辺を一体で捉えて検討

柳川市は、西口駅前広場と東西自由通路は国の補助事業「都市再生整備計画」を活用し、東口駅前広場は土地区画整理事業の一環として整備した。駅舎は、西日本鉄道が橋上化した。

整備事業が動き出した2009年当初は、市と西日本鉄道それぞれが独自に整備案を作成。相互の調整を図るために市は11年に、アトリエT-Plus(東京都狹江市)の辻彦彦氏に駅周辺整備の計画調整を依頼した。辻氏の提案をもとに12年、駅周辺を一体的に捉えて整備内容を検討する場として、市と西日本鉄道のほか、専門家なども加えた「西鉄柳川駅周辺地区デザイン検討会議」(委員長: 出口敦・東京大学大学院教授)が立ち上がる。会議での議論と並行する形で、市は、主に地元住民を集めた「活用市民ワークショップ」や「柳川らしいデザインを考える会」、地元小学校の「父親委員会」と協働した「モノづくりワークショップ」などを続々開催(写真4)。

駅周辺整備はこの3月で一通り完成したが、出口教授は「西口駅前整備を川下りの起点となる北側の掘割へとつなげていくことが今後の課題で、これからの勝負だと考えている」と語る。

## 利用者の評価



### 利用者の声

#### 夜景が美しい

全体のデザインは4.5ポイントで、「きれいで文化を感じる」(18才女性)、「夜景が感動的」(40代男性)、「木の空間が落ち着く」(60代女性)と世代を超えて好評だ。

評だ。

西口駅前広場の使いやすさや居心地のよさの項目は、3ポイント台にとどまった。「歩道が広くて歩きやすい」という声の一方、「広すぎて人がたまりにくい」、「開放的すぎて自由通路の階段に風や雨が吹き込む」、「西口の一般車両用のスペースが狭い」との意見もあった。

### 事業者の説明

当地の気候は温暖なので、自然の風や光を感じてもらうために自由通路の階段付近はあえて密閉しないで開放的な構造にした。また、西口駅前広場の一般車両用レーンは、広すぎると縦列駐車を誘発するので、乗降スペースや路肩も含めて幅員6mにした。利用者には、新しい東口駅前広場のロータリーも使ってもらうように引き続き広報していく。

東西の駅前広場は日常的なイベントの

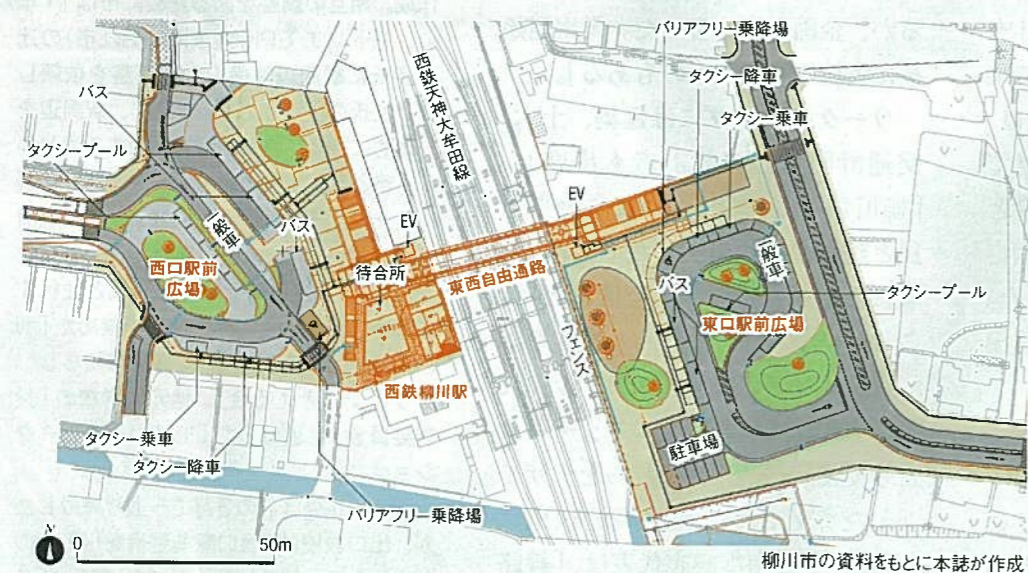


写真4 ■ 東口駅前広場で線路沿いの境界柵には近隣エリアの特産材「八女杉」を使い、地元小学生などが組み立てた(写真:柳川市)

場として市民が活用しやすいように、広い歩行者空間を確保した。供用開始後、既に約30件のイベント利用があり、今後もまちのにぎわいづくりにつなげたい。(柳川市建設部まちづくり課まちづくり計画係の目野隆広係長)

【アンケートの概要】西鉄柳川駅周辺を歩いていた人やタクシー運転手、店舗事業者など計28人に、5段階評価の質問に答えてもらった。5が満点で1に近づくほど評価が低い

図1 ■ 平面図



東口駅前広場。近隣を流れる矢野川の石をベンチに活用した。線路沿いに設けた面積約500㎡のイベント用空間では、供用開始後に市民による駅前ヨガなどが開催された



西口駅前広場で地元小学校の父兄などが2015年10月に開いたハロウインのイベント(写真:柳川市)

ワークショップで市が示した東西自由通路の当初案。市民との意見交換を経て、大屋根を5層に分けた最終案になった。(資料:WAO渡邊篤志建築設計事務所)



東口駅前広場。東西の駅前広場をデザインした小野寺康都市設計事務所(東京都千代田区)の小野寺康代表は、「八女杉」や鉄、レンガ、御影石など、本物の素材を柔らかく組み合わせ、穏やかな雰囲気の柳川らしい表情のデザインにした」と話す



東口駅前広場。バス停前の歩行者動線は「八女杉」をあらわして用いた屋根を掛けた。「曲線で柔らかいイメージでまとめた」(デザインを手掛けたナグモデザイン事務所の南登代表)



東西自由通路の意匠設計は、WAO渡邊篤志建築設計事務所(東京都杉並区)。こちらも「八女杉」を用いた統一感のあるデザインにした



駅北側から見た夜景。整備計画では東口側は「生活の拠点」、西口側は「観光の拠点」と位置付けている

### 位置図



### 【プロジェクト概要】

**東西自由通路**  
 ■名称=西鉄柳川駅付近自由通路整備工事 ■施工場所=福岡県柳川市三橋町下町地内 ■発注者=柳川市 ■設計者=WAO渡邊篤志建築設計事務所、西鉄シー・イー・コンサルタント ■設計協力者=梅沢建築構造研究所、Lプランズ ■監修=出口敦(東京大学教授)、篠原修(東京大学名誉教授) ■計画調整=辻喜彦(アトリエT-Plus) ■施工者=安藤ハザマ、清水建設、日本車両製造ほか ■設計期間=2012年3月~13年3月 ■工期=2013年5月~16年3月 ■設計費=5990万円 ■工費=14億3800万円 ■事業延長=120m、有効幅員4m

**西鉄柳川駅**  
 ■名称=西鉄柳川駅橋上化整備工事 ■施工場所=福岡県柳川市三橋町下町46-2 ■発注者=西日本鉄道 ■設計者=九建設 ■施工者=西松建設 ■設計期間=2012年8月~13年3月 ■工期=2013年3月~15年9月 ■事業費=約12億円 ■事業延長=1360m(2階建て駅舎の延床面積)

**西口駅前広場**  
 ■名称=西鉄柳川駅西口駅前広場整備工事 ■施工場所、発注者、監修、計画調整は東西自由通路と同じ ■設計者=建設技術センター(管理技術者:懸樋喜康) ■設計協力者=小野寺康都市設計事務所、ナグモデザイン事務所、五十嵐淳(アルメックVPI) ■施工者=中川建設、甲斐田組ほか ■設計期間=2012年1月~13年3月 ■工期=2013年3月~16年3月 ■設計費=4000万円 ■工費=2億6200万円 ■事業規模=3900㎡

**東口駅前広場**  
 ■名称=西鉄柳川駅東口駅前広場整備工事 ■施工場所、発注者、監修、計画調整、設計協力者は西口駅前広場と同じ ■設計者=建設技術センター(管理技術者:懸樋喜康)、福山コンサルタント ■施工者=大豊実業、創広電気商会ほか ■設計期間=2005年9月~13年3月 ■工期=2012年2月~16年3月 ■設計費=670万円 ■工費=1億4100万円 ■事業規模=4400㎡